



2015年第3 四半期決算説明資料

2015年1月1日 ~ 2015年9月30日

竹本容器株式会社
(東証2部 4248)

2015年11月10日

 **TAKEMOTO**

1.2015年第3四半期トピックス

2.2015年第3四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

①金型（新製品）開発状況

当社グループでは、中国子会社で手掛けている金型製作工程の一部内製化の施策を進行させるとともに、金型設計標準化ならびに金型開発体制の拡大強化を行うことで、2017年には年間500型（スタンダードボトルとカスタムボトルの合算）の金型製作の実現を目指しています。

今年度においては、グループ全体で230型の金型製作を計画していますが第3四半期までの進捗状況は下記のとおりです。

	完成金型数	製作中	合計
日本	102型 (21型)	38型 (9型)	140型 (30型)
中国	94型 (39型)	80型 (11型)	174型 (50型)
合計	196型 (60型)	118型 (20型)	314型 (80型)

※表の（ ）は内数でカスタムボトル用金型

2015年9月末時点での自社金型数は2,823型に。

②Takemoto Netherlands B.V.設立

9月16日、オランダ ヘルモンド市にTakemoto Netherlands B.V.を設立しました。

すでに、ヨーロッパでのスタンダードボトルビジネス展開のため、化粧品・パーソナルケア関連企業を中心に営業活動を開始しています。

③結城事業所 第5期工事着手

日本国内の主力工場である結城事業所において、印刷・二次加工工程の設置を目的とした増築工事に着手しています。近隣ながら離れた場所に存在している印刷工程を成形工程と連携させることで、納期の短縮を図り、お客様の利便性をさらに高める計画です。

工事は2015年10月に着工、来春の完成を予定しています。



〔現在の結城事業所〕

1.2015年第3四半期トピックス

2.2015年第3四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

2.2015年第3四半期業績概要

2015年第3四半期連結決算ハイライト（前期末比）

	2015年第3四半期		2014年12月期（通期）	
	百万円	%	百万円	%
売上高	9,118	100.0	11,062	100.0
営業利益	991	10.9	877	7.9
営業外損益	6	0.1	2	0.0
経常利益	997	10.9	879	8.0
特別損益	▲13	0.1	9	0.1
税金等調整前 当期純利益	984	10.8	889	8.0
四半期（当期） 純利益	667	7.3	581	5.3
減価償却費	465		723	
設備投資額	960		1,360	
（うち 金型）	257		438	
ROE	—		13.1%	

売上高

日本国内、中国とも3Qまでは受注は新規・リピートとも順調に推移するも、中国では今年も若干の落ち込み傾向あり。

地域別セグメント	2015/3Q	2014/12
日本	6,694	8,568
中国	2,280	2,312
その他	143	180

営業利益

樹脂原材料の価格低減は日本、中国とも継続。日本の減価償却方法変更と中国での生産効率向上効果もあり、利益率up

地域別セグメント	2015/3Q	2014/12
日本	663	630
中国	294	214
その他	32	32

四半期純利益

営業利益率upにより純利益率も上昇

【参考】平均為替レート

	2015年 第3四半期	2014年12月期
対人民元	19.33 円	17.19 円
対米ドル	120.98 円	105.79 円

2.2015年第3四半期業績概要

2015年第3四半期連結決算ハイライト（前年同期比）

	2015年第3四半期		2014年第3四半期	
	百万円	%	百万円	%
売上高	9,118	100.0	8,396	100.0
営業利益	991	10.9	791	9.4
営業外損益	6	0.1	0	0.0
経常利益	997	10.9	792	9.4
特別損益	▲13	0.1	9	0.1
税金等調整前 当期純利益	984	10.8	801	9.5
四半期純利益	667	7.3	514	6.1
減価償却費	465		494	
設備投資額	960		829	
（うち 金型）	257		276	
ROE	—		—	

売上高

新製品開発効果と顧客へのカスタムボトル提案活動との相乗効果により、日本、中国とも売上増加
百万円

地域別セグメント	2015/3Q	2014/3Q
日本	6,694	6,480
中国	2,280	1,818
その他	143	96

営業利益

樹脂原材料の価格低減、日本の減価償却方法変更、中国での生産効率向上効果により、利益率up
百万円

地域別セグメント	2015/3Q	2014/3Q
日本	663	587
中国	294	183
その他	32	19

四半期純利益

営業利益率upにより純利益率も上昇

【参考】平均為替レート

	2015年 第3四半期	2014年 第3四半期
対人民元	19.33 円	16.72 円
対米ドル	120.98 円	102.95 円

区分別販売実績

販売先の主要事業内容ごとの販売実績

区分	2015年第3四半期		2014年第3四半期	
	金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%
化粧・美容	5,318	58.3	4,904	58.4
日用・雑貨	413	4.5	547	6.5
食品・健康食品	744	8.2	739	8.8
化学・医薬	442	4.9	384	4.6
卸、その他	2,198	24.1	1,821	21.7
合 計	9,118	100.0	8,396	100.0

※ 上記区分は販売先の主要事業内容により分類したものであり、
販売先における実際の用途と上記区分名称は異なる場合があります。

区分別販売実績

製商品の内訳ごとの販売実績

区分	2015年第3四半期		2014年第3四半期	
	金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%
自社製品 (スタンダードボトル)	6,695	73.4	6,060	72.2
顧客金型製品 (カスタムボトル)	1,039	11.4	948	11.3
他社製品	1,083	11.9	1,205	14.4
材料その他	299	3.3	181	2.2
合計	9,118	100.0	8,396	100.0

※上記区分は以下により分類しています

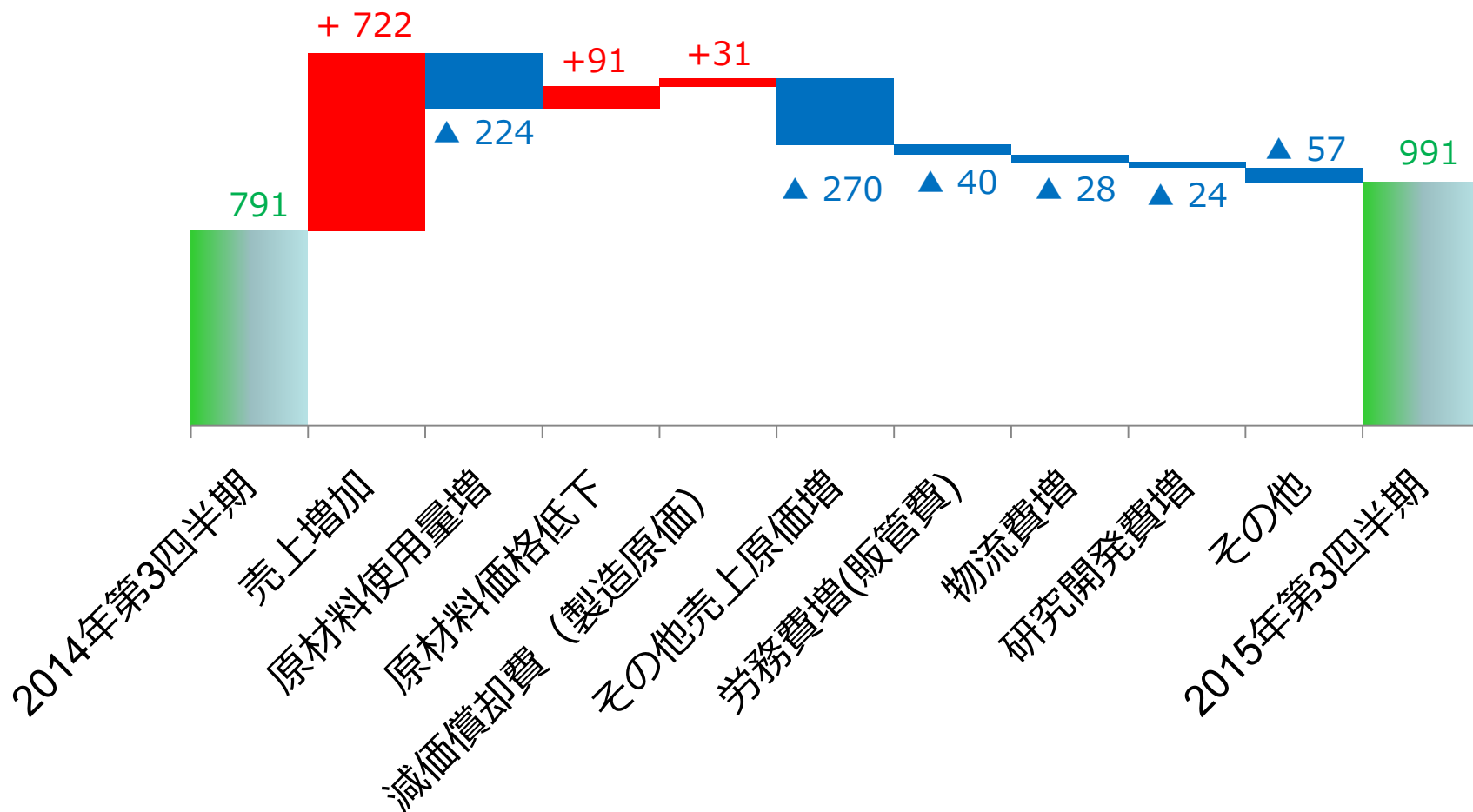
自社製品：当社所有の金型を用いて生産した製品（スタンダードボトル）

顧客金型製品：顧客が金型費用を負担している製品（カスタムボトル）

他社製品：顧客の要望等により他社から仕入れた品物

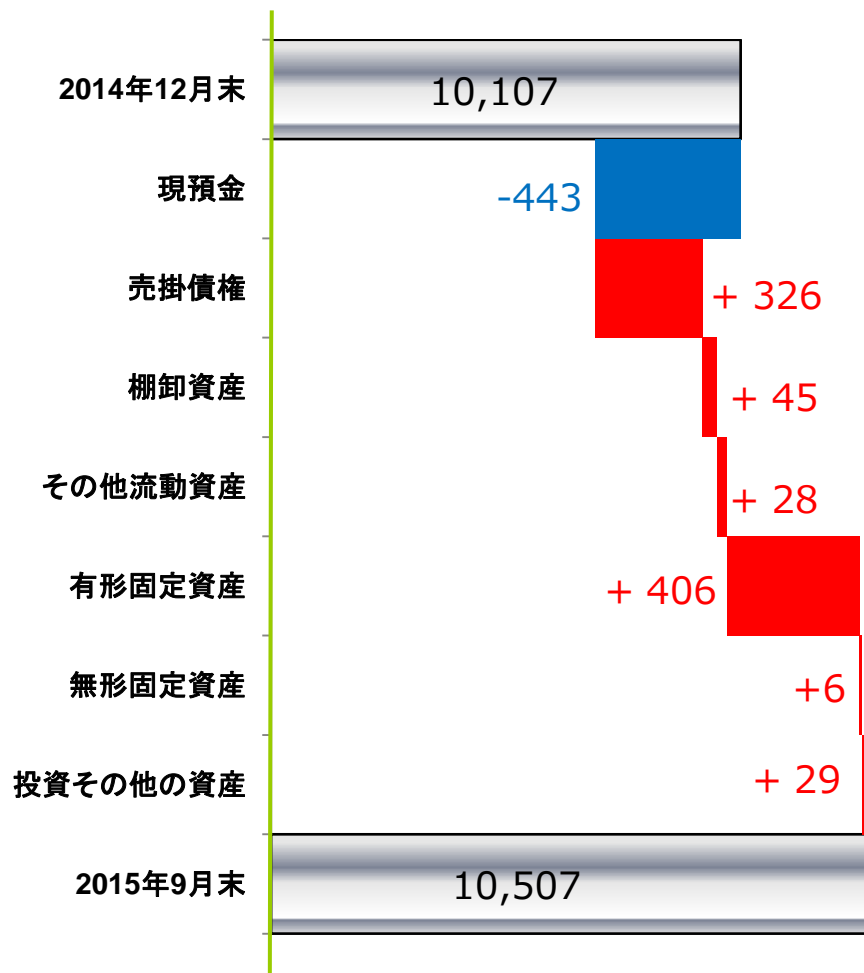
材料その他：協力メーカーへの原材料を販売した物等

2015年第3四半期 営業利益の増加分析



2015年第3四半期 連結貸借対照表 資産の部

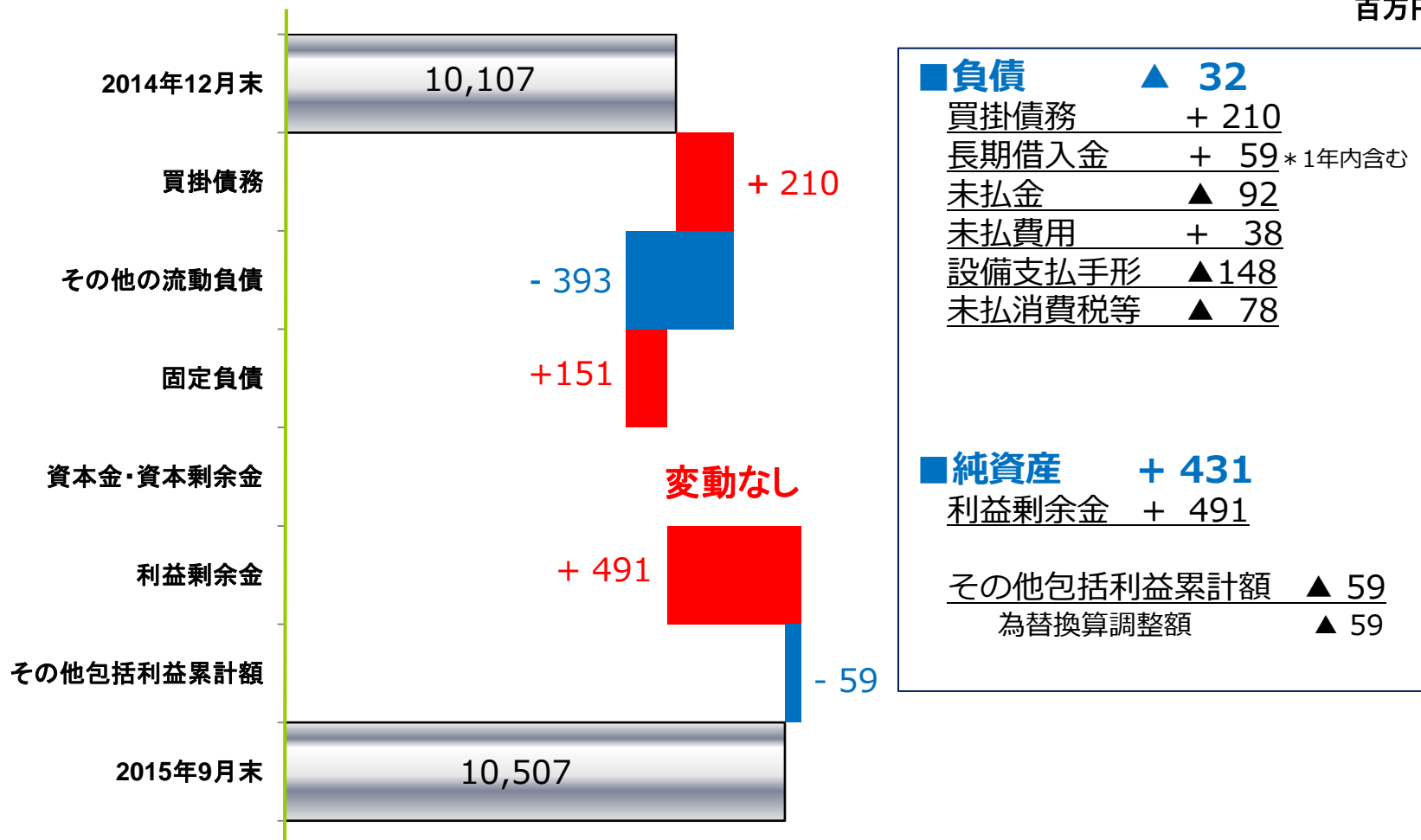
百万円



■流動資産	▲ 42
現預金	▲ 443
売掛債権	+ 326
■固定資産	+ 442
有形固定資産	+ 406
建物及び構築物	+ 403
機械装置及び運搬具	+ 248
金型	+ 82
建設仮勘定	▲ 384
(富山新工場が4月竣工し科目振替)	

2015年第3四半期 連結貸借対照表 負債・純資産の部

百万円



1.2015年第3四半期トピックス

2.2015年第3四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

2015年12月期 損益進捗状況

計画予想に対し利益面は良好に推移

単位：百万円	2015年第3四半期実績		進捗率 (対当初予想)	2015年12月期予想 (当初公表値)	2015年12月期予想 (今回変更値)
		%			
売上高	9,118	100.0	78.6	11,605	<u>12,199</u>
営業利益	991	10.9	95.3	1,040	<u>1,177</u>
経常利益	997	10.9	98.1	1,017	<u>1,173</u>
当期純利益	667	7.3	99.3	672	<u>780</u>

※第2四半期実績為替
レートは右表の通り

2015年第3四半期	
対人民元	19.33 円
対米ドル	120.98 円

2015年第3四半期地域別の予実差異 〔日本〕

	計画値	実績	差額
売上高	6,681	6,694	+ 13
売上原価	4,565	4,527	▲ 38
売上総利益	2,116	2,167	+ 51
販管費	1,529	1,503	▲ 26
営業利益	586	663	+ 77

【変動要因】

売上高は計画比微増に改善。金型含む減価償却費減と原材料価格低下により売上総利益は増。販管費は研究開発費と海外進出費用が増加するも全般的な経費削減に努め計画比微減。営業利益は77百万円の増となった。

〔中国〕

	計画値	実績	差額
売上高	2,122	2,280	+ 158
売上原価	1,572	1,608	+ 36
売上総利益	550	672	+ 122
販管費	325	377	+ 52
営業利益	224	294	+ 70

【変動要因】

円安により売上高で101百万円の円換算増あるが、春節後の受注増もあり実質132百万円の売上増。生産増加のため稼働率と利益率改善し売上総利益は増。販管費は人員増と売上増による経費増あるも営業利益は70百万円の増となった。

配当政策（期末配当金増額）

	2014年12月期	2015年12月期 計画
中間配当金	－	12円（実施済）
期末配当金	19円	12円 ⇒ 16円
年間配当金	19円	24円 ⇒ 28円
当期純利益	581百万円	780百万円
配当性向	18.6%	20.4%

- ・ 利益還元策は配当性向20%を目標として実施する方針
- ・ 2015年通期見込みの修正に伴い、通期配当性向調整のため、期末配当を16円に変更

3.事業計画の進捗について

中期計画（2015～2017）

〔中期スローガン〕

開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして、世界で最も顧客に必要とされ、チャレンジングで活気ある企業になる

	2015年12月期		2016年12月期		2017年12月期	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	11,605	100	12,690	100	13,720	100
営業利益	1,040	9.0	1,140	9.0	1,260	9.2
経常利益	1,017	8.8	1,120	8.8	1,240	9.0
当期純利益	672	5.8	745	5.8	820	6.0
減価償却費	695		870		1,048	
設備投資額	1,538		2,247		1,450	
(うち 金型)	501		800		1,000	
EBITDA	1,735		2,012		2,310	

上記中期計画は昨年策定したもの。
現在、2016～2018の新中期計画を策定中

地域別の売上高、営業利益目標は以下の通り

〔日本〕

	2015年	2017年
売上高	8,848百万円	9,900百万円
営業利益	750百万円	896百万円

〔中国〕

	2015年	2017年
売上高	2,801百万円	3,500百万円
営業利益	260百万円	384百万円

〔その他〕

	2015年	2017年
売上高	141百万円	540百万円
営業利益	25百万円	▲25百万円

中期計画（2015～2017）ポイント

- ・ 開発提案型営業推進

スタンダードボトル
カスタマイズボトル
カスタムボトル

} 提案

- ・ 短納期、高品質の更なる推進を目指した生産体制の強化
- ・ スタンダードボトルの開発推進
〔200型/年 ⇒ 500型/年を実現する体制〕
- ・ 日本、中国、アメリカから東南アジア、ヨーロッパ、インドへ、海外展開推進

中期計画進捗〔海外展開〕

- ・ **中国** 成長率は鈍化しているが、市場規模は大きい
金型製作力の強化と付加価値ある製品開発で
差別化図るとともに、生産力増強も検討中
- ・ **インド** 子会社設立は時期を見直したが、
顧客・市場ニーズ・拠点検討の市場調査継続中
- ・ **ヨーロッパ** 営業拠点としての現地法人を設立済
- ・ **東南アジア** タイ駐在員事務所を拠点に法人化検討中
- ・ **アメリカ** 事業パートナー候補を選定中

「挑戦」なくして進化なし

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。